

第1回 次期消防基本計画検討会 議事要旨

項目	第1回 次期消防基本計画検討会
日時	平成22年6月22日(火) 10:00~12:00
場所	市役所3号館2階 消防局作戦室

【内容】

○開会

○消防局長挨拶

○委員紹介

○会長・副会長の選出（会長に北後委員、副会長に梶木委員を指名）

○会長・副会長挨拶

○資料1、資料2の説明

○資料1、2に対する委員質問

- ・救急の走行距離や活動時間が長いのはなぜか
⇒救急病院の数、救急救命士の措置拡大や、現場から一番近い消防署所管内にある救急車が出動できなくなっているため
- ・平成16年の救助件数が突出して多いのはなぜか
⇒台風が10個上陸したため、水難救助の件数、救助人員が突出
- ・放火に対する取り組みを教えてください
⇒防災福祉コミュニティを通じての指導、放火マップによる放火情報提供、区役所や警察と連携して会議を開催し、重点地区に指定などの対策を実施
- ・火遊びについて、子供が多いと思うがどんな遊びをしているか、内容を教えてください。
⇒屋外でマッチやライターを触るなど、火が出るもので遊ぶのがほとんど

○資料3～5の説明

○資料3～5に対する委員意見等

【消防体制】

- ・行政改革で人員定数の削減が行われる中で消防の人員体制はどうか。また今後の方針は
⇒平成7年職員定数1329人から、今年度は1396人（震災後で67名、5%の人員増 ※市全体では25%削減）今後の方向性について、どのような次期消防基本計画にしていくかも含め、議論はこれから。
- ・神戸市の充足率どうか。
⇒平成21年4月1日現在、消防署所：93.5%、人員：約85%
- ・市民の安全を守る人の安全が守れてない状態では、市民は守れない。
- ・神戸市全体では消防は配慮されているのは理解できる。

【地域】

- ・防コミだけでなく地域全体に消防が呼びかけなければ、防災の担い手の世代交代ができず組織が弱体化する。
- ・FASTのインストラクターなど防災の担い手をどんどん増やすと地域の中で消防団とは別の組織が育つ。職場で、家族で高齢化社会の対応など啓発活動も可能になる。
- ・福祉避難訓練を地域で取り組んでいかなければならない。
- ・地震の経験がない方でも、いざと言うときには市民は動くという気持ちを念頭に日頃から用意をし、心の準備をしていくことが大切。
- ・防災訓練だけでなく運動会を活用するなど、工夫をして自助共助に取り組むことが大切。

【子供】

- ・今の子供たちは震災を知らないため、日常の取り組み、地域の活動を記録に残して子供に見せることが大切。

- ・幼稚園で子供に「自分で自分を守る」話をしたが、5歳の子供でも理解してくれる。
- ・今の子供たちは頭もいいし、知識もあるが体験不足。目的から全部話さないと成り立たないが、体験すると1年で成長する。子供に重点を置いて欲しい。

【消防団】

- ・人数が足りておらず、サラリーマン団員が多い。昼間に空白の時間が長くなる。

【事業所】

- ・地域がイベントを企画して事業所が参画するなど、日頃からの付き合いをしておくことが大切。
- ・我々は震災を経験しており、何を目的にするかも大きいですが、みんなで対応しようというときのため、基本的なことに慣れさせておくことが大切。

○資料6の説明

○閉会